

2019/2/21

柏の景気情報（平成31年1月分）

柏 商 工 会 議 所

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所 振興課
〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18
T E L : 04-7162-3305
F A X : 04-7162-3323
U R L : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>
E-mail : info@kashiwa-cci.or.jp

柏の景気情報（平成31年1月分）

○ 調査期間：平成31年1月25日～平成31年2月6日

○ 調査対象：柏市内156事業所及び組合にヒアリング

＜産業別回収状況＞

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	156	71	45.5%
建設	44	17	38.6%
製造	33	15	45.5%
卸・小売	44	26	59.1%
サービス	35	13	37.1%

○ 調査方法と調査表：下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向 こう3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高 (出荷高)	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 (経常利益ベース)	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問B 業界内のトピック(記述式)

--

$$DI値 = 1増加他の回答割合 - 3減少他の回答割合$$

※ DI値(景況判断指数)について

DI値は、売上、採算、業況などの項目についての判断状況を表す。0(ゼロ)を基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がり意味する。

※ DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振

【平成30年1月の調査結果のポイント】

《全産業況DIは3ヶ月ぶりに悪化。先行きは不透明感から慎重な見方崩れず》

○ 1月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲19.7(前月水準▲12.8)となり、マイナス幅が6.9ポイント拡大した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、卸小売業▲26.9(同▲30.0)である。プラス幅が縮小した業種は、サービス業±0.0(同△6.2)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、製造業▲20.0(同±0.0)、建設業▲23.5(同▲21.0)である。

【建設業】からは、「問い合わせが昨年より多い。消費税UPがきっかけか？駆け込み需要の一環では」(一般土木建築工事業)、「小規模工事が多く改修、リフォーム工事で凌ぐ。安全対策の規則も加わり、諸雑費の出費がある」(電気工事業)、「設備投資に見合った収益が今後得られるように営業強化をしていきたい」(内装工事業)、「弊社は20人足らずの工務店。創業44年になると気づく事がある。会社の元気は景気や採算、業況の問題ではなく、会社が社員とどう向き合っているかが大きなキーワード。営業経費は140万だが社員教育費に600万当てている。「自立型社員」の活躍で、今年も「ガッチリ、」(一般土木建築工事業)などのコメントが寄せられた。

【製造業】からは、「1月から紙が値上げ。その分の印刷製品の値上げはできない。消費税増税は採算に響くだろう」(印刷業)、「難易度の上昇、期間短縮の為設計の時間が取れず、後戻りする案件が増加。部品、表面処理等の値上げ要望も続いている為収益を圧迫」(機械・同部品製造業)、「1月末に仕入先大手メーカーの業績悪化による金融措置が発表。業界全体に悪影響が出なければよいが先行き不安」(自動車付属品製造業)などのコメントが寄せられた。

【卸小売業】からは、「小売は、ネットショッピングの台頭により、大きく変革のある時期。モノからコトニーズやECとの共存共栄等の課題に対応していきたい」(百貨店)、「教科書取扱いの為、2、3、4月は大幅に売上が増加」(書籍・文房具小売業)、「海産物加工業に属するが、自然のものを相手にするので相場観は毎年安定しない。海苔の需要は尽きないが、大手メーカーの席巻が続く、隙間を縫うように価値のある商品、サービスを提供していく必要がある。市内、近郊の顧客について、特に飲食店は市場の利用があまり多くなく伸び悩んでいる。消費税増税を控え、飲食店、特に近郊店への販売は期待が薄い」(農畜産物・水産物卸売業)、「柏市内の火報工事は少ないが、都内は増加」(卸売業)、「メーカーが生産調整。年明けのバーゲン時期にならないと売れない為、特にコート類は恐々作っている。適正在庫の為か極端な値崩れはなし」(婦人・子供服小売業)、「1月下旬～4月の間、改装休業店舗がある為、売上・収益減の見通し」(各種商品小売業)などのコメントが寄せられた。

【サービス業】からは、「例年1、2月は雪の影響で週末の売上減少が見込まれる。1月は無かったが2月が心配。」(日本料理)、「駅10分以内の店舗用、居住用共に不動産は好調。そごう跡地だけが残念でならない。20年先より1年先」(不動産賃貸業)、「レジデンス賃貸市場は、例年通り底堅い感じで繁忙期入り。TX沿線はテナント出店希望の話はよく聞くと見合う上物や土地が出ない。人や車の流れは年毎に増加していると感じる」(不動産賃貸・管理業)、「年度明けは厳しさ有り」(ソフトウェア業)などのコメントが寄せられた。

◎売上減少

各業種より、「今期に入って売上減少。入金サイトと支払サイトの差が広がり、自転車操業の業況では賄いきれない。先行きが不安」(印刷業)、「正月休みが長かったが、雪の影響も少なく前月比日当たりの売上高に大きな変化なし。稼働日数が少ない分、売上激減。」(自動車付属品製造業)、「昨年12月の好調の反動か、1月は厳しい結果に」(菓子・パン小売業)、「1～2階のホームセンター撤退後、1階にスーパーに近い品揃えの薬局、2階に百貨の大手が出店し客足、売上減少。店舗の改修、陳列等を工夫し対応するが難しい。また、近隣の流山おおたかの森駅東口にスーパーと薬局チェーンができ、さらに厳しい状況」(飲食料品小売業)との声が寄せられた。

◎人手不足

各業種より、「設計、製造共に人手不足が続く」(機械・同部品製造業)、「企業側は長時間働ける人を募集するが応募は短い時間という人が多く、ギャップを感じる」(各種商品小売業)、「募集をかけて採用しているが60代男性の電話が圧倒的に多い」(農畜産物・水産物卸売業)、「販売面で人手不足が続いている」(菓子・パン小売業)、「パート募集をして、かれこれ3ヵ月。希望者なし」(菓子・パン小売業)、「3名程の要資格の新規案件があり、募集するが人材不足で苦戦」(飲食料品小売業)、「ドライバー不足の解消は業界全体の課題。人手不足は続くと予想」(一般貨物自動車運送業)との声が寄せられた。

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
8月	▲11.4	▲5.8	△7.1	▲37.5	△6.6
9月	▲20.0	▲22.2	▲12.5	▲33.3	▲6.6
10月	▲12.8	▲10.5	△6.2	▲36.8	▲6.2
11月	▲12.8	▲5.5	△12.5	▲38.0	▲13.3
12月	▲12.8	▲21.0	±0.0	▲30.0	△6.2
1月	▲19.7	▲23.5	▲20.0	▲26.9	±0.0
見通し	▲15.4	▲23.5	△6.6	▲30.7	±0.0

見通しは今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

【平成31年1月の業況についての状況】

○ 1月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲19.7(前月水準▲12.8)となり、マイナス幅が6.9ポイント拡大した。

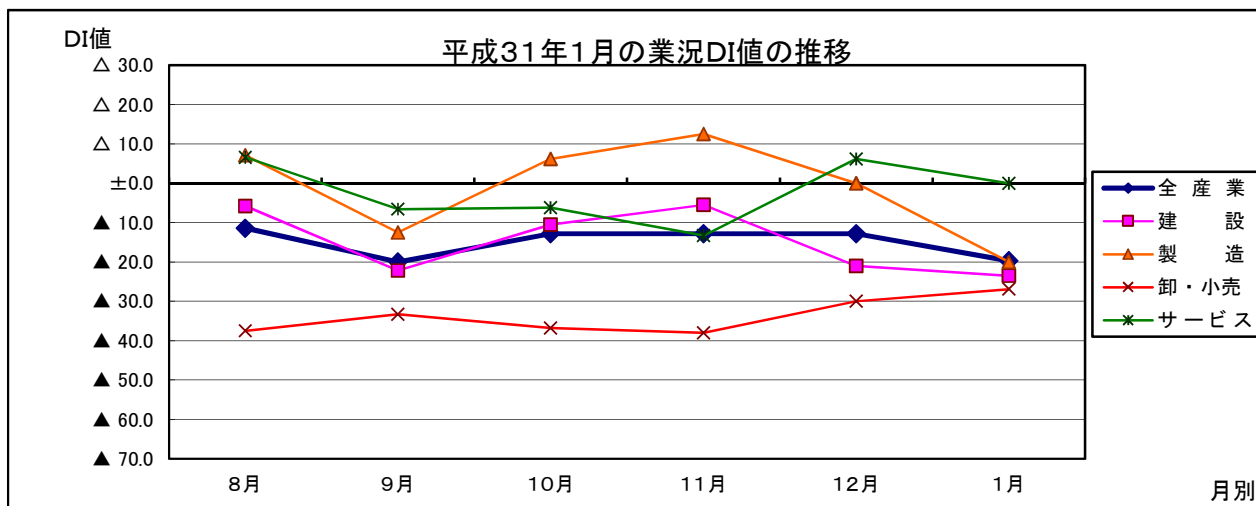
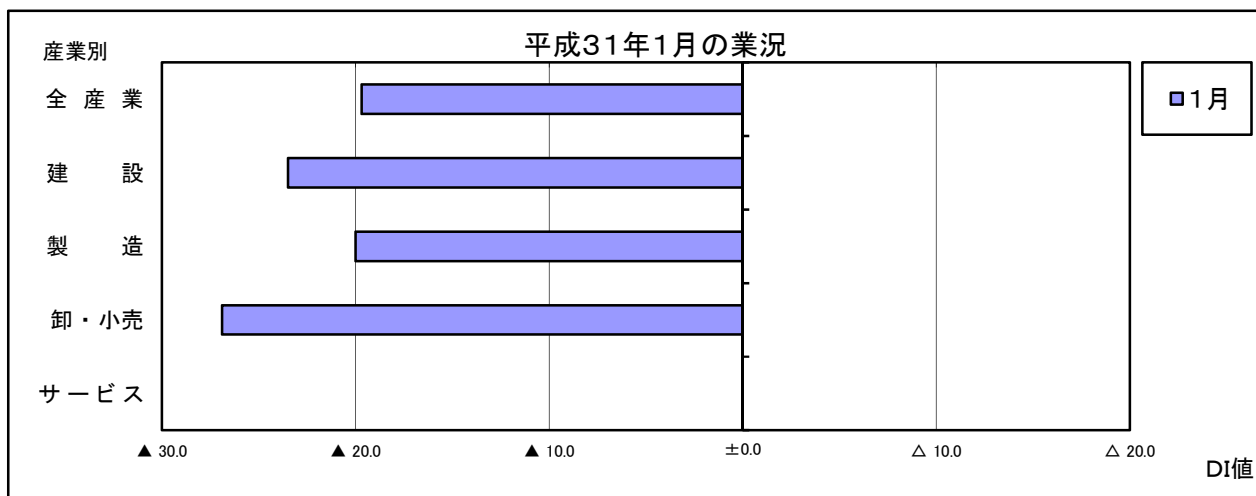
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、卸小売業▲26.9(同▲30.0)である。プラス幅が縮小した業種は、サービス業±0.0(同△6.2)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、製造業▲20.0(同±0.0)、建設業▲23.5(同▲21.0)である。

○ 向こう3ヶ月(2月から4月)の先行き見通しについては、全産業では、▲15.4(前月水準▲15.7)となり、マイナス幅が0.3ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、建設業▲23.5(同▲42.1)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業△6.6(同△13.3)、サービス業±0.0(同△6.2)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、卸小売業▲30.7(同▲30.0)である。

平成31年1月業況DI値(前年同月比)の推移

	平成30年 8月	9月	10月	11月	12月	平成31年 1月	先行き見通し 2月～4月(1月～3月)
全産業	▲11.4	▲20.0	▲12.8	▲12.8	▲12.8	▲19.7	▲15.4(▲15.7)
建設	▲5.8	▲22.2	▲10.5	▲5.5	▲21.0	▲23.5	▲23.5(▲42.1)
製造	△7.1	▲12.5	△6.2	△12.5	±0.0	▲20.0	△6.6(△13.3)
卸・小売	▲37.5	▲33.3	▲36.8	▲38.0	▲30.0	▲26.9	▲30.7(▲30.0)
サービス	△6.6	▲6.6	▲6.2	▲13.3	△6.2	±0.0	±0.0(△6.2)



【平成31年1月の売上についての状況】

○ 1月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲5. 6(前月水準▲8. 5)となり、マイナス幅が2. 9ポイント縮小した。

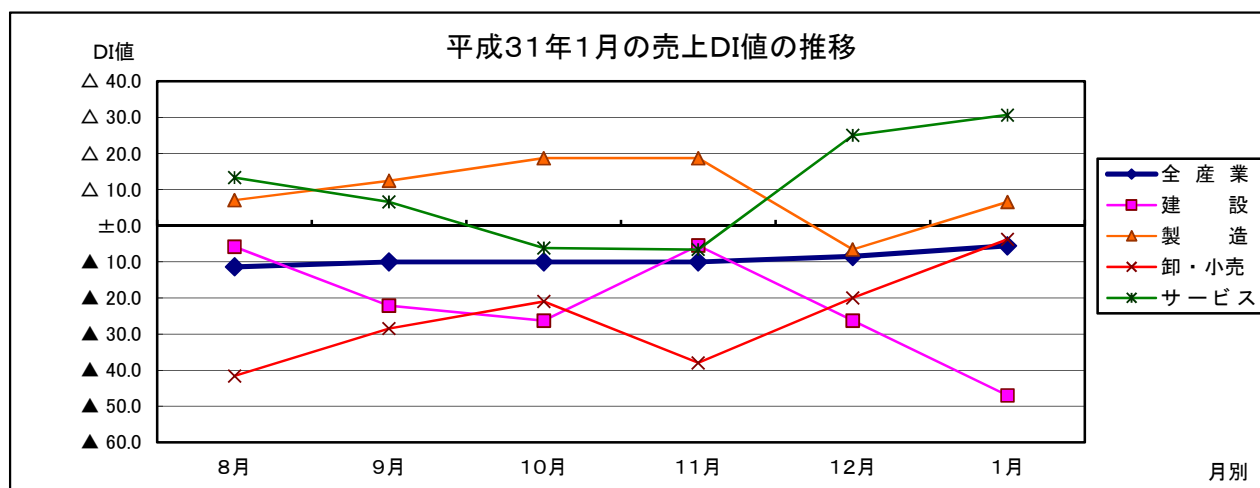
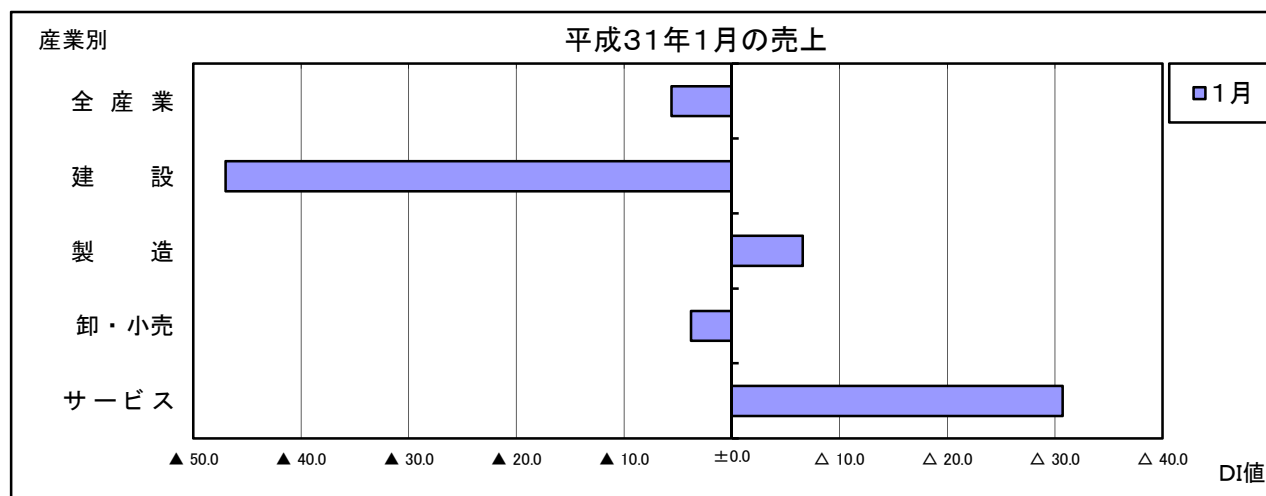
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、サービス業△30. 7(同△25. 0)である。マイナスからプラスに転じた業種は、製造業△6. 6(同▲6. 6)である。マイナス幅が縮小した業種は、卸小売業▲3. 8(同▲20. 0)である。マイナス幅が拡大した業種は、建設業▲47. 0(同▲26. 3)である。

○ 向こう3ヶ月(2月から4月)の先行き見通しについては、全産業では、▲12. 6(前月水準▲5. 7)となり、マイナス幅が6. 9ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、サービス業△15. 3(同△12. 5)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、卸小売業▲15. 3(同▲25. 0)である。プラスからマイナスに転じる見通しの業種は、製造業▲20. 0(同△13. 3)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、建設業▲23. 5(同▲15. 7)である。

平成31年1月の売上DI値(前年同月比)の推移

	平成30年 8月	9月	10月	11月	12月	平成31年 1月	先行き見通し 2月～4月(1月～3月)
全産業	▲11.4	▲10.0	▲10.0	▲10.0	▲8.5	▲5.6	▲12.6(▲5.7)
建設	▲5.8	▲22.2	▲26.3	▲5.5	▲26.3	▲47.0	▲23.5(▲15.7)
製造	△7.1	△12.5	△18.7	△18.7	▲6.6	△6.6	▲20.0(△13.3)
卸・小売	▲41.6	▲28.5	▲21.0	▲38.0	▲20.0	▲3.8	▲15.3(▲25.0)
サービス	△13.3	△6.6	▲6.2	▲6.6	△25.0	△30.7	△15.3(△12.5)



【平成31年1月の採算についての状況】

○ 1月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲16.9(前月水準▲18.5)となり、マイナス幅は1.6ポイント縮小した。

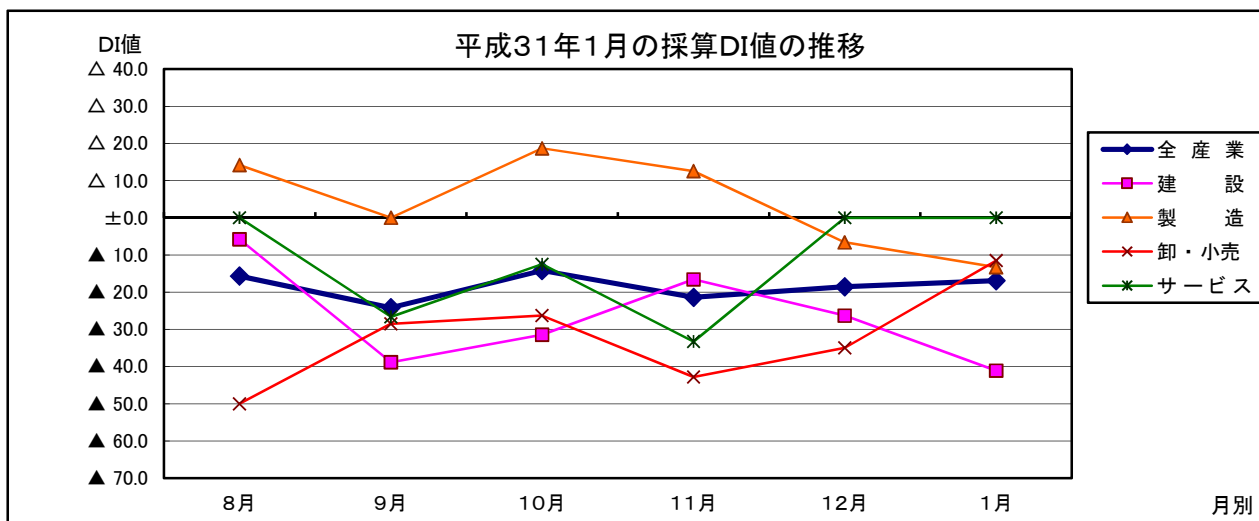
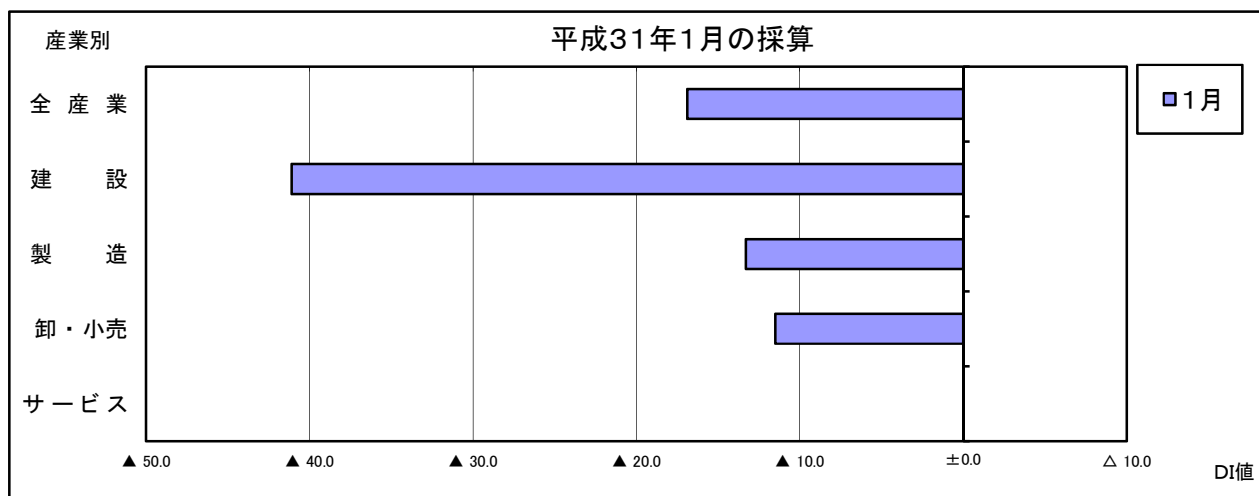
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、卸小売業▲11.5(同▲35.0)である。変らない業種は、サービス業±0.0(同±0.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、建設業▲41.1(同▲26.3)、製造業▲13.3(同▲6.6)である。

○ 向こう3ヶ月(2月から4月)の先行き見通しについては、全産業では、▲23.9(前月水準▲11.4)であり、マイナス幅が12.5ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、建設業▲23.5(同▲36.8)である。プラスからマイナスに転じる見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業▲7.6(同△25.0)、製造業▲13.3(同△6.6)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、建設業▲23.5(同▲36.8)である。

平成31年1月の採算DI値(前年同月比)の推移

	平成30年 8月	9月	10月	11月	12月	平成31年 1月	先行き見通し 2月～4月(1月～3月)
全産業	▲15.7	▲24.2	▲14.2	▲21.4	▲18.5	▲16.9	▲23.9(▲11.4)
建設	▲5.8	▲38.8	▲31.5	▲16.6	▲26.3	▲41.1	▲23.5(▲36.8)
製造	△14.2	±0.0	△18.7	△12.5	▲6.6	▲13.3	▲13.3(△6.6)
卸・小売	▲50.0	▲28.5	▲26.3	▲42.8	▲35.0	▲11.5	▲38.4(▲30.0)
サービス	±0.0	▲26.6	▲12.5	▲33.3	±0.0	±0.0	▲7.6(△25.0)



【平成31年1月の仕入単価についての状況】

○ 1月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲29.5(前月水準▲31.4)となり、マイナス幅が1.9ポイント縮小した。

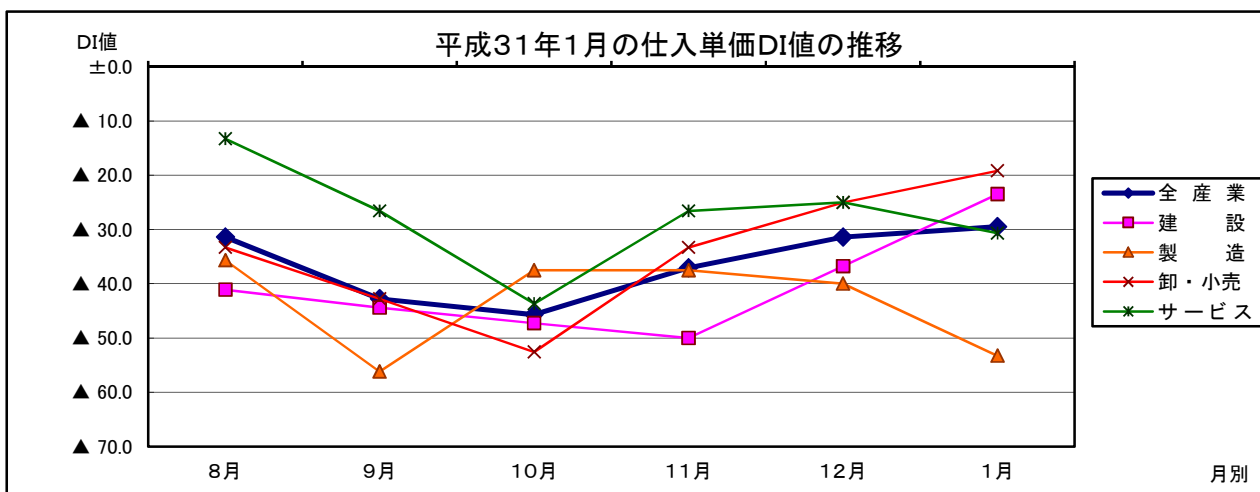
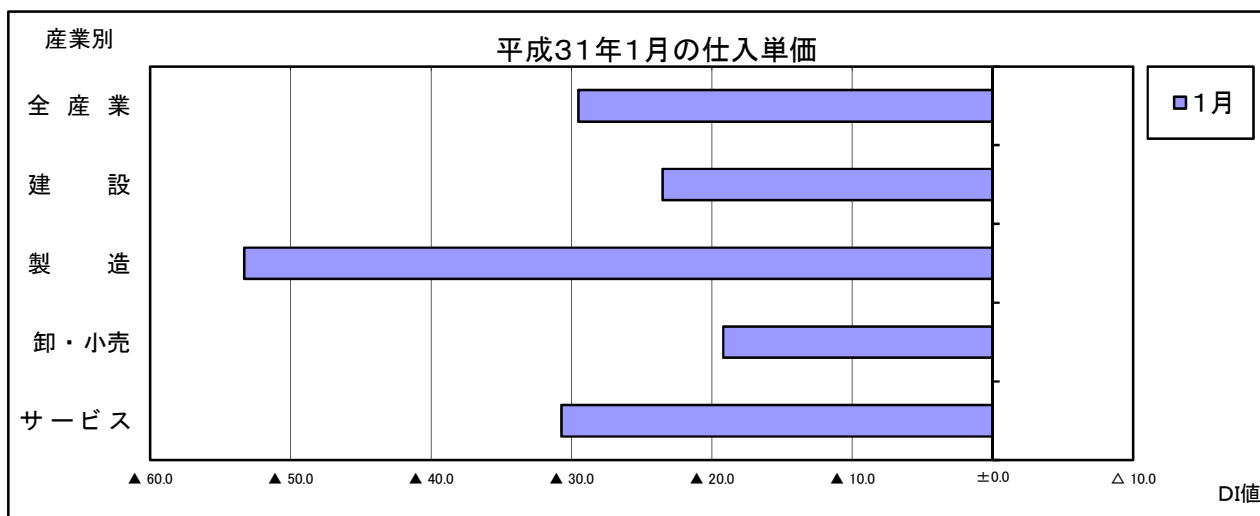
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、建設業▲23.5(同▲36.8)、卸小売業▲19.2(同▲25.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、製造業▲53.3(同▲40.0)、サービス業▲30.7(同▲25.0)である。

○ 向こう3ヶ月(2月から4月)の先行き見通しについては、全産業では、▲25.3(前月水準▲34.2)となり、マイナス幅が8.9ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業▲17.6(同▲42.1)、製造業▲33.3(同▲40.0)、卸小売業▲23.0(同▲25.0)、サービス業▲30.7(同▲31.2)である。

平成31年1月の仕入単価DI値(前年同月比)の推移

	平成30年 8月	9月	10月	11月	12月	平成31年 1月	先行き見通し 2月～4月(1月～3月)
全産業	▲31.4	▲42.8	▲45.7	▲37.1	▲31.4	▲29.5	▲25.3(▲34.2)
建設	▲41.1	▲44.4	▲47.3	▲50.0	▲36.8	▲23.5	▲17.6(▲42.1)
製造	▲35.7	▲56.2	▲37.5	▲37.5	▲40.0	▲53.3	▲33.3(▲40.0)
卸・小売	▲33.3	▲42.8	▲52.6	▲33.3	▲25.0	▲19.2	▲23.0(▲25.0)
サービス	▲13.3	▲26.6	▲43.7	▲26.6	▲25.0	▲30.7	▲30.7(▲31.2)



【平成31年1月の従業員についての状況】

○ 1月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、△29.5(前月水準△22.8)となり、プラス幅が6.7ポイント拡大した。

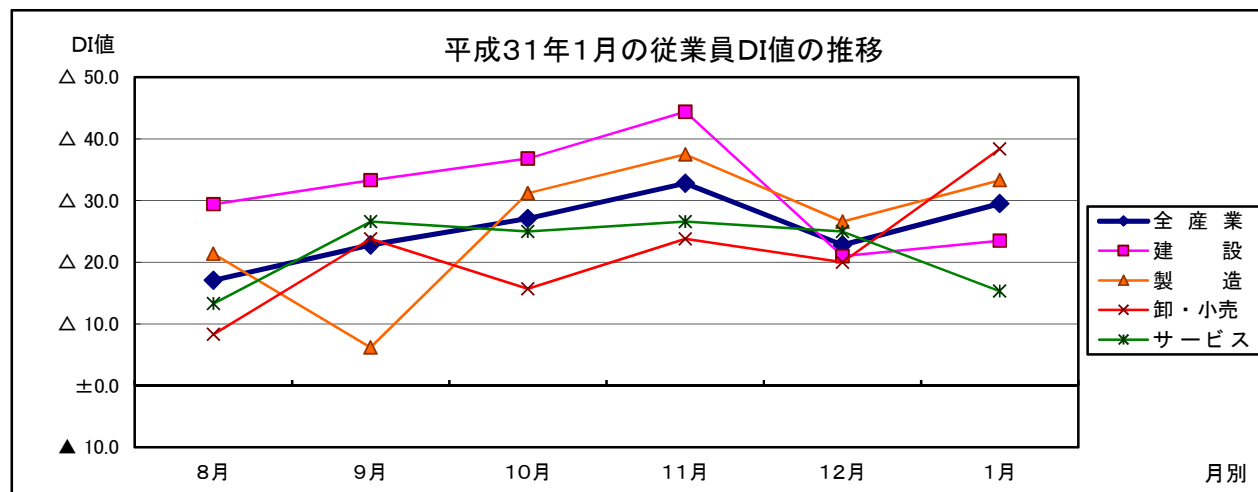
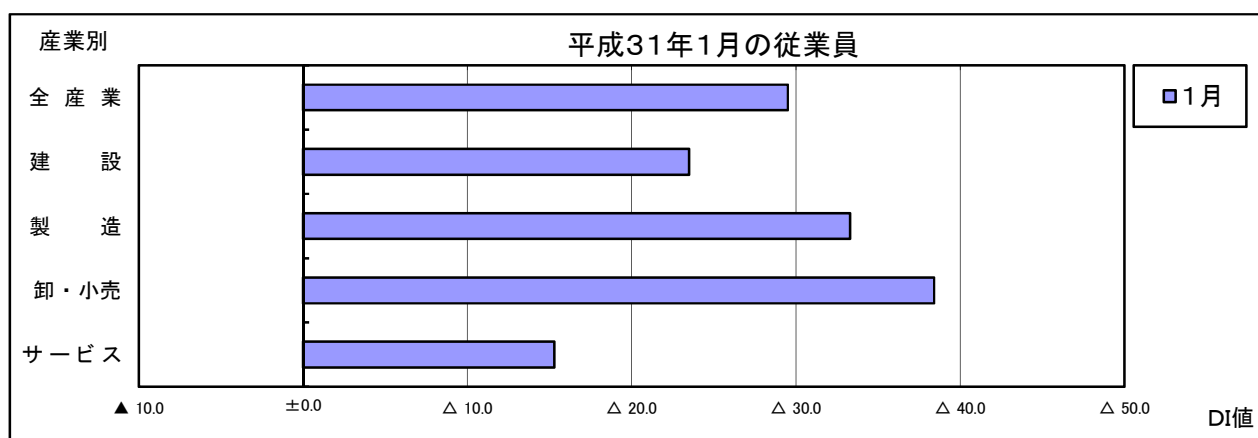
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、卸小売業△38.4(同△20.0)、製造業△33.3(同△26.6)、建設業△23.5(同△21.0)である。プラス幅が縮小した業種は、サービス業△15.3(同△25.0)である。

○ 向こう3ヶ月(2月から4月)の先行き見通しについては、全産業では、△29.5(前月水準△24.2)となり、プラス幅が5.3ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業△38.4(同△15.0)、製造業△33.3(同△26.6)、建設業△23.5(同△21.0)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、サービス業△15.3(同△37.5)である。

平成31年1月の従業員DI値(前年同月比)の推移

	平成30年 8月	9月	10月	11月	12月	平成31年 1月	先行き見通し 2月～4月(1月～3月)
全産業	△17.1	△22.8	△27.1	△32.8	△22.8	△29.5	△29.5(△24.2)
建設	△29.4	△33.3	△36.8	△44.4	△21.0	△23.5	△35.2(△21.0)
製造	△21.4	△6.2	△31.2	△37.5	△26.6	△33.3	△26.6(△26.6)
卸・小売	△8.3	△23.8	△15.7	△23.8	△20.0	△38.4	△34.6(△15.0)
サービス	△13.3	△26.6	△25.0	△26.6	△25.0	△15.3	△15.3(△37.5)



【平成31年1月の資金繰りについての状況】

○ 1月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲4. 2(前月水準▲7. 1)となり、マイナス幅が2. 9ポイント縮小した。

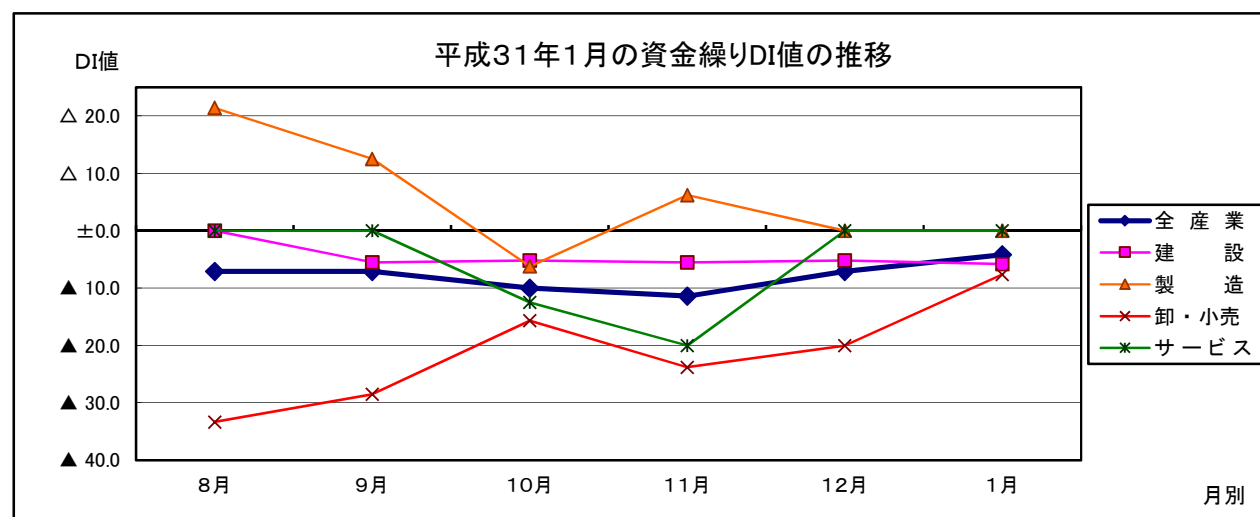
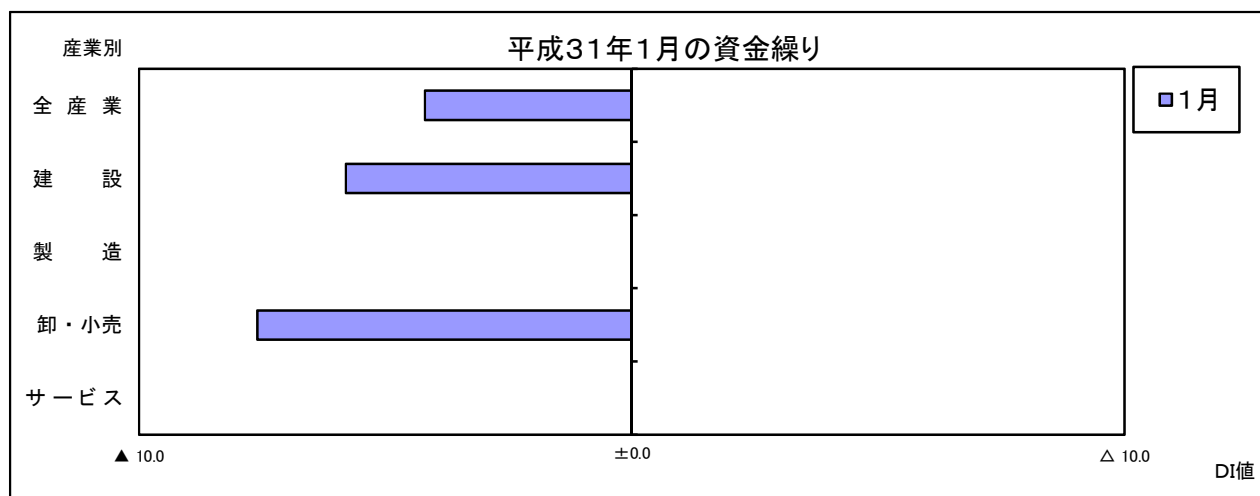
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲7. 6(同▲20. 0)である。変らない業種は、製造業±0. 0(同±0. 0)、サービス業±0. 0(同±0. 0)である。マイナス幅が拡大した業種は、建設業▲5. 8(同▲5. 2)である。

○ 向こう3ヶ月(2月から4月)の先行き見通しについては、全産業では、▲4. 2(前月水準▲14. 2)となり、マイナス幅が10. 0ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲7. 6(同▲25. 0)、建設業▲5. 8(同▲21. 0)、サービス業±0. 0(同▲6. 2)である。変らない見通しの業種は、製造業±0. 0(同±0. 0)である。

平成31年1月の資金繰りDI値(前年同月比)の推移

	平成30年 8月	9月	10月	11月	12月	平成31年 1月	先行き見通し 2月～4月(1月～3月)
全産業	▲7.1	▲7.1	▲10.0	▲11.4	▲7.1	▲4.2	▲11.2(▲14.2)
建設	±0.0	▲5.5	▲5.2	▲5.5	▲5.2	▲5.8	▲11.7(▲21.0)
製造	△21.4	△12.5	▲6.2	△6.2	±0.0	±0.0	▲13.3(±0.0)
卸・小売	▲33.3	▲28.5	▲15.7	▲23.8	▲20.0	▲7.6	▲11.5(▲25.0)
サービス	±0.0	±0.0	▲12.5	▲20.0	±0.0	±0.0	▲7.6(▲6.2)



【DI値集計表】

	売上高(受注・出荷)		採算		仕入単価		従業員	
	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 5.6	▲ 12.6	▲ 16.9	▲ 23.9	▲ 29.5	▲ 25.3	△ 29.5	△ 29.5
建設	▲ 47.0	▲ 23.5	▲ 41.1	▲ 23.5	▲ 23.5	▲ 17.6	△ 23.5	△ 35.2
製造	△ 6.6	▲ 20.0	▲ 13.3	▲ 13.3	▲ 53.3	▲ 33.3	△ 33.3	△ 26.6
卸・小売	▲ 3.8	▲ 15.3	▲ 11.5	▲ 38.4	▲ 19.2	▲ 23.0	△ 38.4	△ 34.6
サービス	△ 30.7	△ 15.3	±0.0	▲ 7.6	▲ 30.7	▲ 30.7	△ 15.3	△ 15.3

	業況		資金繰り	
	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 19.7	▲ 15.4	▲ 4.2	▲ 11.2
建設	▲ 23.5	▲ 23.5	▲ 5.8	▲ 11.7
製造	▲ 20.0	△ 6.6	±0.0	▲ 13.3
卸・小売	▲ 26.9	▲ 30.7	▲ 7.6	▲ 11.5
サービス	±0.0	±0.0	±0.0	▲ 7.6

【平成30年12月業種別業界内トピックス】

業種別	概 況	トピック	業種
建設	問い合わせが昨年と比較すると多いです。消費税UPがきっかけなのか？駆け込み需要の一環では。	消費税増税の影響	一般土木建築工事業
	小規模工事が多く改修、リフォーム工事で凌ぐ。安全対策の規則も加わり、諸雑費の出費がある。	経費増加	電気工事業
	設備投資に見合った収益が今後得られるように営業強化をしていきたい。	営業強化	内装工事業
	弊社は20人足らずの工務店で、創業44年になりますと気づく事があります。会社の元気は景気がどうの採算がどうの業況がどうのの問題ではなく、会社が社員とどう向き合っているかが大きなキーワードになると思います。弊社では、営業経費が140万であるのに社員教育費に600万当てています。「自立型社員」の活躍で、今年も”ガッチリ”。	会社と社員の向き合い方	一般土木建築工事業
製造業	紙の値上がりりが1月から始まった。その分の印刷製品の値上げはできない。消費税の値上げはかなり採算に響くだろう。	経費増加 消費税の影響	印刷業
	難易度の上昇、期間短縮の為設計の時間が取れずに後戻りする案件が増えている。また部品、表面処理等の値上げ要望も続いている為収益を圧迫している。設計、製造共に人手不足は続いている。	経費増加 人手不足	機械・同部品製造業
	今期に入って売上が減少。資金繰りについても、入金サイトと支払サイトの差が広がってきて、自転車操業の業況では賄いきれない。先行きが不安である。	売上減少 資金繰り悪化	印刷業
	正月休みが長かったが、雪の影響も少なく前月比日当たりの売上高に大きな変化なし。稼働日数が少ない分、売上が激減。1月末に仕入先大手メーカーの業績悪化による金融措置が発表された。業界全体に悪影響が出なければよいが先行きに不安が残る。	売上減少 先行き不安	自動車付属品製造業
卸小売	小売は、スマートフォンの普及によるネットショッピングの台頭により、大きく変革のある時期にあると思います。よって、モノからコトニーズやECとの共存共栄等の課題に対応していきたいと考えております。	ネット販売に対する課題	百貨店
	採用は厳しい状況が続いている。企業側は長時間働ける人を募集するが応募は短い時間という人が多い。ギャップを非常に感じる。話題商品に対する感度は高く、又、インフルエンザ対策等も好調。	人手不足	各種商品小売業
	教科書取り扱いの為、2、3、4月は大幅に売上が増えます。	売上増加	書籍・文房具小売業
	採用：募集をかけていて採用もしているが60代男性の電話が多いような。圧倒的に。業界としては海産物の加工に属するが、養殖とはいえ自然のものを相手にするので相場観は毎年安定しない。寿司、和食をはじめとして海苔の需要は尽きることはないが業務用、小売用ともに大手メーカーの席巻が続き、中小企業としては隙間を縫うように価値のある商品、サービスを提供していく必要がある。市内、近郊の顧客については特に飲食店は市場の利用があまり多くないこともあり伸び悩んでいる。消費税増税を控え、飲食店への販売、特に近郊店は期待が薄い。	人手不足 大手メーカーとの競合 消費税の影響	農畜産物・水産物卸売業
	柏市内の建築(火報工事)は少ないが、都内の火報工事は増加しています。	受注増加	卸売業
	人手不足(販売)が続きます。	人手不足	菓子・パン小売業
	パートの募集をして、かれこれ3ヵ月になるが希望者がいない。	人手不足	菓子・パン小売業
	昨年12月の好調の反動なのか、1月は厳しい結果となった。	売上減少	菓子・パン小売業
	メーカー的には生産調整して特にコート類は恐々作っている。寒くなるのが年明けのバーゲン時期にならないと売れない為である。特に暖冬となると目も当てられない。適正在庫の為か極端な値崩れはしなかった。	天候の影響	婦人・子供服小売業
	1～2階のホームセンター撤退後、1階にスーパーに近い品揃えの薬局と2階に100均の大手が出店で客足減少売上減少。一部店舗の改修と陳列等を工夫し対応しているが難しい。また、近隣の流山おおたかの森駅東口にスーパーの出店と薬局チェーンがオープンしさらに厳しい状況。3名程の有資格要の新規の案件があり募集するが、人材不足で苦戦。	売上減少 人手不足	飲食料品小売業
サービス業	1月下旬～4月の間、改装休業店舗がある為、売上・収益減の見通し。	今月以降売上減少の見通し	各種商品小売業
	より広域からの集客は好調	売上好調	百貨店
	例年1、2月は雪の影響で週末の売上減少が見込まれる為、1月は雪の影響はなかったが、2月が心配。	天候の影響	日本料理
	ドライバー不足の解消は業界全体の課題であるが、しばらく人手不足は続くと予想しています。	人手不足	一般貨物自動車運送業
	駅10分以内の店舗用、居住用共に不動産は好調です。そごう跡地だけが残念でならない。20年先より1年先です。	売上好調	不動産賃貸業
	レジデンス賃貸市場は、例年通り底堅い感じで繁忙期入り。TX沿線はテナント出店希望の話はよく聞かが見合う上物や土地が出ない。人や車の流れは年毎に増加してるのを肌で感じる。	例年同様の繁忙期入り	不動産賃貸・管理業

【平成30年12月業種別業界内トピックス】

	年度末、突貫工事中。年度明けは厳しさ有り。	売上停滞	ソフトウェア業
--	-----------------------	------	---------

◎売上減少

各業種より、「今期に入って売上減少。入金サイトと支払サイトの差が広がり、自転車操業の業況では賄いきれない。先行きが不安」(印刷業)、「正月休みが長かったが、雪の影響も少なく前月比日当たりの売上高に大きな変化なし。稼働日数が少ない分、売上激減。」(自動車付属品製造業)、「昨年12月の好調の反動か、1月は厳しい結果に」(菓子・パン小売業)、「1～2階のホームセンター撤退後、1階にスーパーに近い品揃えの薬局、2階に百均の大手が出店し客足、売上減少。店舗の改修、陳列等を工夫し対応するが難しい。また、近隣の流山おおたかの森駅東口にスーパーと薬局チェーンができ、さらに厳しい状況」(飲食料品小売業)との声が寄せられた。

◎人手不足

各業種より、「設計、製造共に人手不足が続く」(機械・同部品製造業)、「企業側は長時間働ける人を募集するが応募は短い時間でという人が多く、ギャップを感じる」(各種商品小売業)、「募集をかけて採用しているが60代男性の電話が圧倒的に多い」(農畜産物・水産物卸売業)、「販売面で人手不足が続いている」(菓子・パン小売業)、「パート募集をして、かれこれ3ヵ月。希望者なし」(菓子・パン小売業)、「3名程の要資格の新規案件があり、募集するが人材不足で苦戦」(飲食料品小売業)、「ドライバー不足の解消は業界全体の課題。人手不足は続くと予想」(一般貨物自動車運送業)との声が寄せられた。

平成31年1月CCI-LOBOとの比較

- 【業況DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲19.7に対し、「CCI-LOBO」が▲16.0で柏の方がマイナス幅が3.7ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、卸小売業、サービス業である。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、製造業であり、建設業は10ポイント以上悪い。
- 【売上DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲5.6に対し、「CCI-LOBO」が▲12.6で柏の方がマイナス幅が7.0ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、製造業、卸小売業、サービス業であり、10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業であり、10ポイント以上悪い。
- 【採算DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲16.9に対し、「CCI-LOBO」が▲14.6で柏の方がマイナス幅が2.3ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、卸小売業、サービス業であり、10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、製造業であり、建設業は10ポイント以上悪い。
- 【仕入単価DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲29.5に対し、「CCI-LOBO」が▲36.6で柏の方がマイナス幅が7.1ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、卸小売業、サービス業であり、建設業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、製造業である。
- 【従業員DI】 全産業合計では、「柏の景気」が△29.5に対し、「CCI-LOBO」が△25.8で柏の方がプラス幅が3.7ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、製造業、卸小売業であり、10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、サービス業であり、10ポイント以上悪い。
- 【資金繰りDI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲4.2に対し、「CCI-LOBO」が▲9.1で柏の方がマイナス幅が4.9ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、製造業、卸小売業、サービス業であり、サービス業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業である。

平成31年1月の木の景気天気図

木の景気情報と全国CCI - LOBOとの比較

景気天気図					
	特に好調 DI $\geq$ 50	好調 50>DI $\geq$ 25	まあまあ 25>DI $\geq$ 0	不振 0>DI $\geq$ ▲25	極めて不振 ▲25>DI

業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 19.7	 ▲ 23.5	 ▲ 20.0	 ▲ 26.9	 ±0.0
CCI—LOBO	 ▲ 16.0	 ▲ 6.3	 ▲ 12.0	 ▲ 36.3	 ▲ 8.6

売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 5.6	 ▲ 47.0	 6.6	 ▲ 3.8	 30.7
CCI—LOBO	 ▲ 12.6	 ▲ 5.9	 ▲ 5.1	 ▲ 32.5	 ▲ 6.0

採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 16.9	 ▲ 41.1	 ▲ 13.3	 ▲ 11.5	 ±0.0
CCI—LOBO	 ▲ 14.6	 ▲ 7.9	 ▲ 10.9	 ▲ 27.6	 ▲ 13.0

仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 29.5	 ▲ 23.5	 ▲ 53.3	 ▲ 19.2	 ▲ 30.7
CCI—LOBO	 ▲ 36.6	 ▲ 41.9	 ▲ 45.7	 ▲ 28.6	 ▲ 33.5

従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 29.5	 23.5	 33.3	 38.4	 15.3
CCI—LOBO	 25.8	 34.3	 20.9	 22.7	 31.1

資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 4.2	 ▲ 5.8	 ±0.0	 ▲ 7.6	 ±0.0
CCI—LOBO	 ▲ 9.1	 ▲ 1.7	 ▲ 9.0	 ▲ 19.3	 ▲ 6.5

CC I - L O B O

商工会議所早期景気観測(1月速報)

調査期間：平成31年1月16日～22日

調査対象：全国の407商工会議所が3371企業
にヒアリング調査を実施

全国の業況

業況DIは、ほぼ横ばいで推移。先行きは不透明感増す中、慎重な見方が続く

1月の全産業合計の業況DIは、▲16.0と、前月から▲0.3ポイントのほぼ横ばい。民間工事や設備投資、自動車関連を中心とした生産、インバウンドを含む観光需要は堅調に推移した。他

方、根強い消費者の節約志向に加え、暖冬により冬物商材の動きが鈍く、売上が伸び悩んでいるとの声も聞かれ、小売業の業況感が悪化した。人手不足の影響拡大や原材料費の高止まりが足かせとな

っており、中小企業の景況感足元ではほぼ横ばいの動きとなっている。

先行きについては、先行き見通しDIが▲17.3（今月比▲1.3ポイント）と悪化を見込むものの、「好転」から「不変」への変化が主因。個人消費の拡大やインバウンドを含めた観光需要拡大、生産・設備投資の堅調な推移への期待感がうかがえる。他

方、人手不足の影響の深刻化

や、原材料費の上昇、コスト増加分の価格転嫁遅れ、貿易

摩擦の激化、世界経済の動向、消費増税の影響など不透明感が増す中、中小企業の業況感

は慎重な見方が見られる。

○各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

産業別にみると、今月の業況DIは前月に比べ、建設業、サービス業で改善、卸売業でほぼ横ばい、その他の2業種で悪化した。各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

【建設業】「公共工事が弱含みつつあるものの、オフィスビル建設などの再開発関連工事が増加し、売上改善となった」（一般工事業）、「定年退職者数に対して、新規採用数が圧倒的に少なく、人手不足が慢性化している。人材確保を目的にベースアップを実施するも、現状の打破には繋がらなかった」（電気通信工事業）

【製造業】「半導体市況はいよいよ踊り場に突入し、前年に比べ受注量が減少した。米中貿易摩擦や中国経済の成長鈍化を背景に、春以降の生産計画も下方修正せざるを得ない」（電子部品等製造業）、「ラグビーワールドカップや東京オリンピック・パラリンピックなどの国際的イベントを控え、関連商品の商談が増えてい

る。今年は積極的に販路開拓を行い、売上増を図る」（雑貨等製造業）

【卸売業】「暖冬から白菜や大根などの生育が順調で、単価安となったことに加え、鍋物向けを中心に引き合いが鈍く、売上は低迷している」（農産物卸売業）、「好調な民間工事を背景に、建設業からの受注が多く、売上は改善した。原油価格の下落も好材料となり、採算も十分に確保できている」（化学製品卸売業）

【小売業】「消費者の節約志向が根強いことに加え、暖冬の影響から冬物衣料の動きが鈍く、前年に比べ、売上は大幅に落ち込んだ。設備の老朽化が深刻なもの、資金繰りに苦慮しており、設備投資を実施できない」（衣料品小売業、

「インバウンドの来店が多く、売上は改善。だが、パート・アルバイトの採用に苦戦しており、人手不足から販売機会を逃すことが増えてきた」（百貨店）

【サービス業】「海外旅行客数が増加し、売上改善となったほか、10連休となる今年のゴールデンウィークの予約も順調。だが、出国税の導入や2月に控える燃油サーチャージ料金の引き上げが、この勢いに水を差すのではないかと懸念している」（旅行業）、「年末年始の客入りは好調だったが、三が日以降の来店客数は乏しく、全体の売上は落ち込んだ。インバウンドを含めた観光需要の取り込みが急務である」（飲食業）

【サービス業】「海外旅行客数が増加し、売上改善となったほか、10連休となる今年のゴールデンウィークの予約も順調。だが、出国税の導入や2月に控える燃油サーチャージ料金の引き上げが、この勢いに水を差すのではないかと懸念している」（旅行業）、「年末年始の客入りは好調だったが、三が日以降の来店客数は乏しく、全体の売上は落ち込んだ。インバウンドを含めた観光需要の取り込みが急務である」（飲食業）

【サービス業】「海外旅行客数が増加し、売上改善となったほか、10連休となる今年のゴールデンウィークの予約も順調。だが、出国税の導入や2月に控える燃油サーチャージ料金の引き上げが、この勢いに水を差すのではないかと懸念している」（旅行業）、「年末年始の客入りは好調だったが、三が日以降の来店客数は乏しく、全体の売上は落ち込んだ。インバウンドを含めた観光需要の取り込みが急務である」（飲食業）

【サービス業】「海外旅行客数が増加し、売上改善となったほか、10連休となる今年のゴールデンウィークの予約も順調。だが、出国税の導入や2月に控える燃油サーチャージ料金の引き上げが、この勢いに水を差すのではないかと懸念している」（旅行業）、「年末年始の客入りは好調だったが、三が日以降の来店客数は乏しく、全体の売上は落ち込んだ。インバウンドを含めた観光需要の取り込みが急務である」（飲食業）

【サービス業】「海外旅行客数が増加し、売上改善となったほか、10連休となる今年のゴールデンウィークの予約も順調。だが、出国税の導入や2月に控える燃油サーチャージ料金の引き上げが、この勢いに水を差すのではないかと懸念している」（旅行業）、「年末年始の客入りは好調だったが、三が日以降の来店客数は乏しく、全体の売上は落ち込んだ。インバウンドを含めた観光需要の取り込みが急務である」（飲食業）

全国・産業別業況DIの推移

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
8月	▲14.8	▲8.1	▲11.4	▲16.1	▲27.7	▲11.7
9月	▲16.0	▲7.6	▲9.6	▲17.8	▲31.4	▲13.9
10月	▲17.2	▲10.7	▲10.2	▲24.9	▲29.3	▲15.2
11月	▲14.9	▲9.9	▲10.2	▲9.3	▲29.2	▲13.2
12月	▲15.7	▲8.1	▲9.7	▲17.1	▲31.6	▲12.4
1月	▲16.0	▲6.3	▲12.0	▲17.9	▲36.3	▲8.6
見通し	▲17.3	▲6.6	▲14.7	▲16.0	▲32.7	▲14.5